

## プロテインキナーゼC<sub>I</sub>、活性型ヒト、組換え

Cat. No. NATE-0577

Lot. No. (See product label)

### はじめに

#### ○明

プロテインキナーゼC (PKC) は、セリン/スレオニンキナーゼであり、さまざまな活性化されたホスホリパーゼの作用を通じて、ホスファチジルイノシトール二リン酸 (PIP2) およびホスファチジルコリン (PC) からDAGを生成するシグナル伝達路によって細胞内で活性化されます。フォルボールエステルもPKCを刺激します。少なくとも11種類のPKCアイソザイムが同定されており、これらは一次構造、組織分布、細胞内局在、細胞外シグナルへの応答、および基質特異性において異なります。アイソザイムは3つのサブファミリーに分類できます。最初のファミリーのメンバーはCa2+およびホスホリビッドを必要とし、PKC $\alpha$ 、 $\beta$ I、 $\beta$ II、および $\gamma$ が含まれます。第二のファミリーのメンバーはホスホリビッド依存ですがCa2+非依存であり、PKC $\delta$ 、 $\epsilon$ 、 $\eta$ 、および $\theta$ が含まれます。第三のファミリーのメンバーはDAGまたはフォルボールエステルによって活性化されず、PKC $\xi$ 、 $\mu$ 、および $\iota$ が含まれます。

#### 用途

キナーゼ活性は、30°Cで50 μM [32P] ATPの最終濃度を使用して、1分あたりおよび1 mgのタンパク質あたりCREBtide基質ペプチドに取り込まれたリン酸のモル量として測定されます。

#### 別名

PKCL; プロテインキナーゼCラムダ/イオタ; PKC<sub>I</sub>

### 製品情報

#### 種

人間

#### 由来

大腸菌

#### 形態

緩衝された水性グリセロール溶液

#### 分子量

apparent mol wt ~98 kDa

#### 純度

> 85% (SDS-PAGE)

#### 緩衝液

5 μgの溶液を50 mM Tris-HCl、pH 7.5、150 mM NaCl、0.25 mM DTT、0.1 mM EGTA、0.1 mM EDTA、0.1 mM PMSF、および25%グリセロールで調製。

#### 代謝路

細胞接合体の組織、特定の生物系；細胞間コミュニケーション、特定の生物系；細胞間接合体の組織、特定の生物系；EGFR1シグナル伝達路、特定の生物系；エンドサイトーシス、特定の生物系；エンドサイトーシス、保存された生物系；Gタンパク質シグナル伝達路、特定の生物系

#### 機能

ATP結合；金属イオン結合；ヌクレオチド結合；ホスファリビッド結合；タンパク質結合；プロテインキナーゼC活性；プロテインキナーゼ活性；タンパク質セリン/スレオニンキナーゼ活性；タンパク質セリン/スレオニンキナーゼ活性；亜鉛イオン結合

### 保管・発送情報

#### 安定性

-70°C